

イベント駆動型インフラストラクチャの自動化の4つのユースケース

Event-Driven Ansible は、Red Hat® Ansible® Automation Platform の機能であり、IT 環境内のイベントへのプロアクティブな対応を支援します。ルールによって、イベントのソースに対応するアクションと結びつけます。Event-Driven Ansible の高度な機能により、自動化は IT の投資対効果 (ROI) とパフォーマンスを維持するために必要不可欠な要素となります。

Ansible Rulebooks はイベントソースを定義し、「この条件の場合は、この動作をする」という条件付き命令の形式で、特定の条件が満たされたときにどのようなアクションを実行するかを記述します。設計したルールブックに従って、Event-Driven Ansible は指定されたイベントを認識し、適切なアクションと一致させ、自動的に実行します。アクションには、既存の Ansible Playbook の実行、さらなる調査のためのイベントのエスカレーション、関連するイベントペイロード情報を含むサービスチケットの作成または拡張など、さまざまな対応を含めることができます。

ここでは、Event-Driven Ansible の 4 つのユースケースをご紹介します。

1 ServiceNow ITSM インシデントをより効率的に修復

ServiceNow IT Service Management (ITSM) 向けの Red Hat Ansible Certified Content Collection との現在の統合に加え、Event-Driven Ansible を使用して次のことができるようになりました。

- ▶ ServiceNow ITSM、Ansible Automation Platform、その他のシステムやコンポーネント間のクローズドループの自動化プロセスを強化します。
- ▶ Event-Driven Ansible 通知サービスを使用して問題を補強、強化、修復し、IT チームの生産性を向上させ、摩擦を低減します。
- ▶ チケットに関連する事実を収集し、追加のトラブルシューティング・データでインシデントを強化して、解決を効率化します。
- ▶ 仮想マシンのリクエストなどの条件が指定された上限を超えた場合に、サービスカタログの注文を承認者に昇格します。

2 Red Hat Insights を使用した Red Hat Enterprise Linux のトラブルシューティング

Red Hat Insights はほぼすべての Red Hat サブスクリプションに含まれており、プラットフォームとアプリケーションを継続的に分析し、通知サービスを通じてイベントをトリガーできます。また、マルウェア、システムの構成ミス、構成ドリフト、コンプライアンスとポリシー違反など、Red Hat Enterprise Linux® のインシデントのイベントソースとしても機能します。

Red Hat Insights で Event-Driven Ansible を使用すると、次のことが可能になります。

- ▶ Red Hat Enterprise Linux 環境内のイベントに対応します。
- ▶ 適切な Ansible Playbook をキックオフして問題を修復すると同時に、新しい ServiceNow ITSM インシデントを作成して根本原因を分析します。
- ▶ システムログ (systemd) とシステムイベントを使用して、SELinux 違反をプロアクティブに修正します。
- ▶ Event-Driven Ansible を使用して、Performance Co-Pilot からのパフォーマンス指標に基づいて Red Hat Enterprise Linux の問題を修正します。

3 Microsoft Windows と Active Directory によるチケット情報の強化

Microsoft Windows には、ユーザーアカウントの追加、削除、更新の際に有益な情報を含む、包括的なイベントログ機能があります。Ansible Automation Platform を使用して Windows ホストおよび Active Directory でこれらのユーザーをプロビジョニングすることに加えて、次のことができます。

- ▶ Ansible Automation Platform を使用してイベントのペイロードを収集し、構成管理データベース (CMDB) を更新しながら新しい ServiceNow ITSM チケットを作成して補強します。
- ▶ ファイアウォールのエラーの通知など、イベントの一貫した自動化トラブルシューティングを実現します。この場合、自動修復を適用する代わりに、必要となる可能性のある追加のユーザー介入を指定することができます。
- ▶ チケットを関連データで更新することにより、多忙な IT チームは問題を短時間で調査し、全体的なセキュリティ露出を減らすことができます。

4 ストレージのテレメトリデータを意思決定に利用

Event-Driven Ansible をテレメトリデータと統合することで、ストレージ環境を管理するためのプロアクティブで効率的なアプローチが実現します。これにより、以下のことが可能になります。

- ▶ ホストがストレージへのアクセスに問題があると報告した場合、Event-Driven Ansible による追加の事実収集とトラブルシューティングを自動的にトリガーします。
- ▶ ストレージだけでなく、ネットワークやストレージエリアネットワーク (SAN) 相互接続も含めることができます。
- ▶ 重要なインフラストラクチャイベントの応答時間を劇的に改善し、システムの信頼性と稼働時間を確保できます。

Event-Driven Ansible を試す

Ansible Rulebook の構築を始めましょう。

Event-Driven Ansible の詳細

動画をご覧ください。



Red Hat について

Red Hat は、受賞歴のあるサポート、トレーニング、コンサルティングサービスをお客様に提供し、複数の環境にわたる標準化、クラウドネイティブ・アプリケーションの開発、複雑な環境の統合、自動化、セキュリティ保護、運用管理を支援します。

- f fb.com/RedHatJapan
- t twitter.com/RedHatJapan
- in linkedin.com/company/red-hat

アジア太平洋 +65 6490 4200 apac@redhat.com	インドネシア 001 803 440 224	マレーシア 1800 812 678	中国 800 810 2100
オーストラリア 1800 733 428	日本 03 4590 7472	ニュージーランド 0800 450 503	香港 800 901 222
インド +91 22 3987 8888	韓国 080 708 0880	シンガポール 800 448 1430	台湾 0800 666 052